

「新しい東北」官民連携推進協議会
令和6年度 岩手県意見交換会（第2回）議事概要

令和6年10月10日
「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日 時】令和6年10月10日（木）13:00～15:00
【場 所】マリオス18階会議室／オンライン（Teams）
【出席者】（順不同・敬称略）

＜副代表団体＞

岩手県／国立大学法人岩手大学／特定非営利活動法人 いわて連携復興センター

＜復興庁＞

復興庁 復興知見班／復興庁 岩手復興局

＜事務局＞

株式会社読売エージェンシー／株式会社 JTB

【議事概要】

1 開会

復興庁知見班 笠間企画官より、これまでの経歴、挨拶、ならびに現在の復興庁の活動内容、今後の復興庁としての展望について話がなされた。

2 各団体の令和6年度上半期活動紹介

復興庁（資料2-1～2-5）、岩手県、岩手大学、いわて連携復興センターより取り組みを紹介した。

3 実践の場、および招待状作成ワークショップの進捗に関するご報告

事務局より、内陸部と沿岸部を繋ぐ、をテーマとした映像取材ツアー企画、招待状ワークショップの企画について、第1回意見交換会からの調整内容を説明し、その内容に対する意見交換、ならびに今後の実施内容についての意見交換が行われた

＜主な意見＞

- ・招待状ワークショップの参加者募集については、県立学校内で閲覧できる掲示板へ掲出を行っているが、開催日程が決定していない状況のため、学生の参加判断が難しいのではと感じた。
- ・招待状ワークショップへの参加は、実践の場と同様に、関連する高校の部活動や団体などへ声かけを行うほうが良い。
- ・ワークショップの日程を決定してこれから周知したとしても、参加者が集まるかどうかは不明である。参加人数を確保するためにも、こういった方法が考えられるかを副代表団体から意見を求めたい。
- ・参加人数を確保するためには、高校生にこだわらず、大学生などを参加対象として周知する必要があると思われる。
- ・デザインや写真、国際交流や震災復興について興味を持っているような方に参加いただきたい。大阪・関西万博での使用や、東日本大震災津波伝承館（陸前高田）での100日前イベントへの参加なども調整しており、活動が広くPRされる取組のため、高校生以外にも、大学生や若者カフェの利用者など広く参加してもらい、岩手の魅力をアピールしてもらいたい。
- ・招待状作成は、様々な年代の参加者を混合させたチーム構成が望ましいが、データ作成や写真の用意等を参加者が同時に集まって行うのは困難である。

- ・全体的なトーン、構成や、使用写真素材の選定については事務局主導で行い、岩手県の招待状として参加者の想いや意向を汲んだ形に仕上げる必要がある。
- ・学生自らが撮影した写真を使用する場合は、事務局による許諾確認を行う必要がある。
- ・大阪・関西万博でこの招待状を活用するにあたっては、各県それぞれでコンセプトを持った内容にすることが重要。宮城県では災害や復興について学んでいる多賀城高校が参加し、今の地域の姿と魅力を伝えることを目標としている。岩手県においても学生たちが段取り良く検討を行うために、副代表団体の皆様にも参加いただき、岩手県らしい招待状になるように協力を願いたい。
- ・学生が参加するためには、何かしらの動機付けになるメリットがあると、もう少し参加者が集まるのだと思う。
- ・参加者募集の手法として、釜石高校の課外活動として夢団という防災や震災伝承の面で釜石の発信を行っている高校生団体がある。そこに釜石に関連する発信を行う、という動機付けを行うことで参加協力を得られるのでは無いかと思う。また、高校魅力化コーディネーターにもアプローチして、その方が関わっている学校などへの声がけを依頼することも出来る。
- ・来年度の取り組みについては、これまで行われた取り組みの総括や、フォローアップ調査などを行ったほうが有意義だと思う。
- ・学生の参加依頼については、半年前には学校のスケジュールが決まってしまうので、早期の対応が必要となる。
- ・特定団体に協力の声がけを行う場合、公平性を保つため、事務局によるピックアップと選定理由の設定があると良い。
- ・個人的な意見となるが、官民で取り組みが行えることについては貴重だと感じている。もっと私たちも取り組みに参加していきたいと思う。
- ・震災から時間を経て、沿岸部でも今の小学生には記憶が無い。大学生においても学生の代替わりを経て気質が変わってしまっているが、能登の震災時に大学に掛け合っただ募金活動を始めた学生や、震災や復興に関わる取り組みをするサークルに参加している学生も居る。そういった大学生が自分の考え方のコアに残るような取り組みを継続させていくことは重要になる。副代表団体として関わらせていただき、今後も皆さんと連携した取組を継続させていくことが重要である。

4 閉会

第2回意見交換会では実践の場及び招待状ワークショップの進捗報告と今後の課題について議論がなされた。参加者募集の難しさやワークショップの具体的な内容などに関しての課題等が挙げられた。